



# 絶対無理！

この私に出来るのか？  
老人介護。。。。

anzu

## 入院

---

「警察に訴えてやる！」

「警察を呼んでくれ！」

こんな言葉を、頻繁に聞くようになった。これは、認知症になった早苗の言葉である。先日、部屋で転んで足の骨を折った早苗は、そのまま入院して手術を受けた。

嫁の良美は現在50歳、夫、完治54歳、3年前に義父が亡くなり、義母、早苗83歳との3人暮らしだ。

息子が2人いるが、成人して2人とも家を出ている。

良美は、完治が仕事でいつも帰りが遅いので、ほとんどの夕食は早苗と2人で済ませます。その夕食の時、早苗が、

「泥棒が入って、物を取っていった。警察を呼んでくれ！」

と、時々怒って訴えてくる。早苗は、大事なものを取られないように自分で隠してしまうのだ。

そして、昔のことは覚えているのにすぐ前のしゃべった言葉や出来事を忘れてしまうのだ。

犯人は、嫁であったり、孫であったり、息子であったり、裏の家の人であったり、身近な人が犯人にされる。

それと、早苗は、腰を以前傷つけた為か、排泄の方の感覚が鈍く尿漏れパットを当てているにもかかわらず、

よく、ズボンを濡らして平気な顔をして、食事の席に着く。はっきり言って臭い。

でも、本人は、気づいていない。良美は、うまく声をかけて着替えをさす自信もないので、そのまま本人が気づくか、食事を済ませて自分の部屋にもどるまでがまんする。

良美は、昼間はパートに出かけている。早苗は、家から出るのが嫌いで、ほとんど家の中で過ごしている。

窓を開けたくても、泥棒が入ると言う早苗の言葉の為、出かける時は、鍵をかけて出る。

おかげで、家の中は、早苗の尿の臭いが充満している。

そんな時、良美は、心の中で、

「なんとか、義母を傷つけないように声をかけて私がオシメをしてあげる？無理無理、義母はオシメはするのが嫌なのだから。私だっておしっこやうんこ触りたくないし……。ほんと、介護している人は、すごい！私には、絶対無理」

と、思うのだった。

そんな時、早苗が、部屋で転び、骨折して入院ということになった。

良美は、悪いと思いながらも、少しホットしたのであった。

